

令和2年度 第1回 高山市総合計画審議会 会議録（要旨）

日 時：令和3年2月2日（火） 13時30分～16時10分

場 所：高山市役所4階 特別会議室

出席者：高山市総合計画審議会委員 24名（オンライン出席7名を含む）

（欠席者6名） ※別紙名簿のとおり

高山市企画部長、企画課長、企画課係長、企画課担当、ブランド戦略課長、
海外戦略課長、環境政策推進課長、環境政策係長、商工課担当監

会議内容（次第）

1. 開会

市あいさつ（田谷企画部長）

2. 会長及び副会長の選任について

会長 堀委員

副会長 谷口委員

3. 議事（議長：堀会長）

(1) 平成31年度地方創生交付金事業の評価・検証について

資料に基づき事務局が説明

菘谷委員

- ・ タウンマネージャーについて、様々な活動が進められていると感じている。商店街などの活性化に向けた更なる取り組みについて、様々な関係者の声も聴きながら進めていただきたい。

議長（堀会長）

- ・ タウンマネージャーにより、商店街の営業状況や空き店舗などの調査を行っており、今年度末には様々なデータをまとめて報告があると聞いている。

西委員

- ・ 移住について、移住者の年齢層を教えてください。

池上ブランド戦略課長

- ・ 本事業のうちインターンシップに参加し、実際に移住した方は20代男性だった。インターネットでの応募を行ったため、参加者の年齢層については比較的若いと感じている。

(1)について了承

(2)令和2年度地方創生交付金事業の取組状況について

資料に基づき事務局が説明

大野委員

- ・ 「村半」について、コロナ禍の現在は地域内の利用が主になっていると思うが、今後、全国的な展開についてどのように考えているか。

北村企画課長

- ・ 大学との連携による展開を進めていくことを考えている。飛騨高山大学連携センターを中心として、様々な大学と深く関わりを持ちながら、市内での調査研究の拠点としての活用や施設を使った事業展開を進めていく。

議長（堀会長）

- ・ 「村半」では、教育旅行や大学等のゼミの拠点施設としての活用が期待されている。今後は、県外からの利用も多くなるのではないかと考える。

中畑委員

- ・ 中部山岳国立公園活性化事業は県との連携で取り組まれているが、乗鞍スカイラインの利用について、マイカー規制の緩和を含めた対応の検討と飛騨山脈全体の知名度の向上のためのPR活動を進めていただきたい。

山郷環境政策係長

- ・ 国や県、松本市などの近隣の自治体、関係団体などと連携し、乗鞍岳及び周辺の活性化に向けた取り組みを進めている。
- ・ 活性化に向けて知名度の向上、多様な活用方法など、検討・協議を進めている。

長瀬委員

- ・ 国においては、森林サービス産業の育成に力を入れている。森林の中での教育や健康増進レクリエーション活動など、市でもぜひ取り入れていただきたい。
- ・ 先日の飛騨高山学会では、高校生の国立自然公園に関する発表があり、若者にも興味を持ってもらえていると感じた。
- ・ 飛騨市では、若者を呼び寄せるための森林を活用したレクリエーションや木育などの取り組みを行っている。森林の多面的活用について、様々な分野に活かす取り組みを進めてもらいたい。

唐谷委員

- ・ 3年程前から森林空間サービスに興味を持っている。市内には、長い間整備されていない森林がたくさん残っているため、木育や森林浴などでの活用ができないか、岐阜県の森林文化アカデミーに相談し検討をすすめている。
- ・ 森林浴には、免疫力を高める効果があるとの文献もある。森林と観光を結び付けるような取り組みを進めてもらいたい。

議長（堀会長）

- ・ 自然・健康・教育をテーマにした新たな観光振興の取り組みを進めようとしている。その中でも、自然は非常に大切なテーマと認識している。

村上委員

- ・ 岐阜県では、花の種子を配って育てる活動を行っている。森や木をテーマにした木育だけではなく、花を育てる教育「花育」もぜひ進めてもらいたい。

西永委員

- ・ 高齢者が増加するなか、高齢者が気軽に集まれる場所が必要である。空き店舗を活用した「よって館」のような施設を拡充していただきたい。

田谷企画部長

- ・ 高齢化の進展は市としても重要な課題と捉えており、空き店舗を活用した、高齢者や子ども、親子などが交流できる場としての活用も考えている。第八次総合計画においては、屋内型の遊び場整備を掲げており、実現できるよう進めたい。

(2)について了承

(3)令和2年度施策評価について

資料に基づき事務局が説明

岩塚委員

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や豪雨など、想像もつかない事態が起こった。総合計画の見直しについての考えを聞きたい。
- ・子育て家庭の孤立やうつ、ネグレクト、児童虐待などが深刻な問題となっている。地域ぐるみのサポートが大切と感じている。
- ・学校の休校など家庭での学びの機会が増えたが、家庭に通信環境が整っていないために通信料金が大幅に増え、家計を圧迫しているとの話を聞いている。
- ・オンライン環境の充実は、教育面だけではなく、リモート勤務などで空き家活用や移住の促進などにもつながることから、環境整備の必要性を感じている。

北村企画課長

- ・新型コロナウイルス感染症の影響など、市を取り巻く環境が大きく変化しているなか、市においても総合計画がこのままで良いのか検証を行ったところである。総合計画の核となる基本理念や都市像、まちづくりの方向性、まちづくり戦略は、今後もしっかり進めていくべき事項であると認識しており、基本計画については変更すべきでは無いと判断しているところである。
- ・しかしながら、コロナ禍における新しい日常への対応や収束後を見据えた取り組みは必要であり、総合計画の基本計画に基づきながら、実施計画のローリングや各年度の予算編成において反映させることとしている。
- ・オンライン環境の整備について、児童・生徒の自宅での学習環境の充実に向けて、貸出用のルーターの整備を進めている。また、様々な分野においてDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進していく必要があると認識している。

西永委員

- ・市民アンケートを見ると、高齢者に対する各種施策の重要度は高くなっているが、市民の満足度は低い。近年、独居の高齢者が増えてきており、高齢者が安心して暮らせるインパクトのある施策を検討していただきたい。

北村企画課長

- ・総合計画では、「心身が健康で安心して暮らし続けられる社会の実現」をまちづくり戦略に掲げており、安心できる暮らしの保持、セーフティネットの構築などに取り組むこととしている。様々な意見を伺いながら進めたい。

中田委員

- ・ 高齢者が増加しているものの、長寿会の会員は減少している。活動の維持のためにも、多くの方が長寿会に加入してもらえる取り組みを検討しており、市としても協力いただきたい。
- ・ 新火葬場建設について、候補地が丹生川に決まったと聞いたが、市民の意見が全て反映していると言えないのではないか。どのような理由で決定したのかを聞きたい。

北村企画課長

- ・ 総合計画においても健康寿命の延伸を掲げており、生きがいを持って暮らせる社会づくりは大切と考える。

田谷企画部長

- ・ 新火葬場建設については、3つの候補地のうち、距離や住環境など様々な視点で検証した。結果として、丹生川と清見は原山より時間を要することは確かである。しかし、原山は周辺に多くの住宅地があるということで、住宅環境への配慮として適当ではなく、丹生川が最も適していると判断したところである。議会からもこの案で市民や地元に説明をしていくことの下承を得たので、今後、市民説明会を開催し、理解を求めていきたい。

村上委員

- ・ 市民アンケートにおいて、高山市に住み続けたくないとの回答や意見が見られる。移住などにより人を呼び込む取り組みが進められているが、移住後も住み続けたいと思わせるよう、政策を推進していただきたい。

鴻巣委員

- ・ 新聞を購読していない家庭が増えていることから、市の広報紙やチラシなどでは情報が行き届かないと感じている。行政のホームページは、多くの人がアクセスしているとは思えない。広報活動の工夫に取り組んでもらいたい。
- ・ 市民に地域産の食材をもっと利用してもらいたい。SDGsの推進の一環になり得ると考えており、地産地消を積極的に進めてもらいたい。

谷口委員

- ・ 農業や畜産業などのブランド化に向けた取り組みは様々な自治体で進められており、産地間の競争が激化している。

- ・ 高品質な作物を育てるための技術指導や新規就農などの取り組みに対して、行政による更なる支援をお願いしたい。

中畑委員

- ・ 役員になりたくないという理由で、町内会の脱退者が増えていると感じている。市の窓口や不動産事業者においても町内会への加入促進に協力いただいているが、引き続きの協力をお願いしたい。

仲委員

- ・ 飛騨地域は、空気や水がきれいで、良質な作物が育てられている地域である。恵まれた環境にあることを魅力に感じ、誇りに思うことを大切にしたい。
- ・ 下呂市の竹原地区にある保育園の園児数が増加していると聞いた。小さなコミュニティにおいても、人を呼び寄せるヒントになるのではないか。研究を進めていただきたい。

北村企画課長

- ・ 市民が地場産品などの魅力や価値を意識し、磨き上げる、インナーブランディングに力を入れて取り組んでいる。
- ・ 広報紙以外にもホームページやSNSでの発信も行っているが、行政に対して興味を持ってもらうことが重要であると考えており、市民の参加や興味を持ってもらえるしくみづくりに取り組んでいく。
- ・ 学校給食において、地産地消に積極的に取り組んでいるものの限界がある。しっかりと地域産農産物の魅力を市民や事業者などへ伝えながら、関係機関等とともに取り組みを進めていく。
- ・ 竹原地区に限らず、地域の活性化に向けた取り組みについて、情報収集や研究をさせていただく。

議長（堀会長）

- ・ 高山市は手厚い子育て支援制度を持っているため、制度を他の自治体と比較するなど、しっかりと広報していくことが大切である。

唐谷委員

- ・ 登校する子どもへ声掛けを行っているが、声を掛けてくれて嬉しかったという年賀状が届いた。予算を使わなくても、子どもが喜び、大人も楽しめる取り組みは様々にあることから、積極的に進めていきたい。

議長（堀会長）

- ・ 一之宮のまちづくり協議会では、三世代による活動を行っており、事例発表などで共有していく必要がある。

大野委員

- ・ 緊急事態宣言により、古い町並には観光客がほとんどいない状態となっており、店舗も半数以上休業している状況にある。観光関連産業の疲弊は大きく、このままでは観光が取り残されていってしまうことを危惧している。
- ・ 日本に在住している外国人や自家用車を持った親子連れの姿を目にするため、それらの方々を中心にアプローチできないか考えていただきたい。

議長（堀会長）

- ・ 観光関連産業は、売上ベースで前年比2割程度まで落ち込んでいると推測している。日本に住んでいる外国人向けの情報発信や産業団体活性化の補助を活用した支所を含めたマイクロツーリズムに向けた環境整備など、市とも協議しながら、様々な取り組みを行っている。
- ・ 緊急事態宣言の解除、Go to キャンペーンの再開などにより、観光が好転する時期を見越した取り組みを検討している。

蓑谷委員

- ・ 市民アンケートについて、10～30代の回答率が低い。将来のためにも若者の意見が多く取り入れられるしくみを検討いただきたい。
- ・ 給与水準が低いという回答が多いが、高山に住んで良いところもある。生活をトータルで示していくことが大切である。
- ・ 自然エネルギーの活用について、指標などの数値が分かりにくい。例えば、木質バイオマスの活用がどれくらい進んでいるのかなど、数字の見える化を進めてもらいたい。

坂井委員

- ・ 大学の学生を募集する際、誰の意見を参考に進学先を決めたのかアンケートを行っている。圧倒的に影響力が強いのは母親であり、次が高校の先生だった。人口の流出などの対策を進めるにあたり、この2者へのアプローチが重要と考える。

田谷企画部長

- ・ 高校3年生を対象としたアンケートを行っているが、親や親戚から市内企業などを勧められたことがあるかとの問いに対し、4分の3の生徒は何も言われたことがないという結果だった。
- ・ 約7割の生徒は市内の企業のことを詳しくは知らないという結果であり、家族、地域、民間の接点を増やしていくことが重要と感じている。
- ・ 国においても、地域学習の重要性が言われていることから、しっかりとしたアプローチが必要と感じている。

桑谷委員

- ・ 市民アンケートでは、高山には大企業がない、働くところがないとの回答が多くみられるため、まずは知ってもらうことが大切と感じている。
- ・ 進路決定にあたり母親の意見が強いと感じており、企業としてもアピールする必要がある。こんな会社で働きたいと思ってもらえるよう、官民一丸となって取り組んでいく必要がある。

長瀬委員

- ・ 市民アンケートでは、災害を心配する一方で、令和2年7月豪雨災害を忘れかけている人が大勢みえる。災害を風化させないためにも子どもに対する防災教育の視点が足りないように感じる。次の世代へ引き継ぐためにも、防災について知る、学ぶ、備える、引き継ぐということを検討していただきたい。

西委員

- ・ 消防団の団員が減っている一方で、大規模な水害や災害が発生すると人の力が必要となる。消防団員の確保に向けてお力添えをいただきたい。

(4) コロナ禍を踏まえた高山市第八次総合計画の内容について

田谷企画部長

- ・ 第八次総合計画については、昨年3月に大幅に見直しを行った。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大による大きな社会情勢の変化、経済への影響が起きたなかで、総合計画の見直しの必要性について、市議会からも意見がでていくことから、市として第八次総合計画の再検証を行った。
- ・ 具体的な事業の規模や実施時期、実施手法などについては、状況にあわせた対応が必要であるものの、今後のまちづくりにおいて、仕事・産業の振興、人材育成、まちの基盤の構築という大きな3つの柱で、相関関係を保ちながら好循環を目指していくという基本計画については、見直すべきではないと判断している。
- ・ 今後は、総合計画に掲げるまちづくりの方向性等に基づき、具体的にどのように実行していくかということに傾注して取り組んでいきたいと考えている。
- ・ 第八次総合計画の策定にあたりご審議賜った総合計画審議会に確認させていただきたい。

(特に異議なし)

議長 (堀会長)

- ・ 今回の新型コロナウイルス感染症の影響に対し、生活支援や経済対策として多額の補正予算を計上されるなど、市として様々な対策を講じていただいている。
- ・ これまでにない未曾有の出来事であり、市でも大きな危機感を持っているものと感じている。
- ・ そのようななかで、この第八次総合計画の推進に向けて、委員の方々にもそれぞれの立場でお力添えをいただきたい。事務局からの説明に対し、何かご意見や質問などがあれば承りたい。

(その他、意見なし)

4. その他

特になし

5. 閉会

令和2年度 第1回 高山市総合計画審議会 委員名簿

任期:R2.6.1~R4.5.31

No.	団体等名称	役職等	氏名	出欠(2/2)
1	高山市観光連絡協議会	会長	堀 泰則	○
2	高山商工会議所	副会長	蓑谷 雅彦	○
3	高山市商店街振興組合連合会	副理事長	松葉 早百合	欠席
4	高山金融協会	会長	古瀬 博康	欠席
5	連合岐阜飛騨地域協議会	事務局長	谷口 寛子	○
6	高山市農業委員会	会長	鴻巣 明久	○
7	飛騨農業協同組合	代表理事組合長	谷口 壽夫	○
8	飛騨高山森林組合	代表理事組合長	唐谷 清司	○
9	社会福祉法人高山市社会福祉協議会	会長	西永 由典	○
10	高山市民生児童委員協議会	委員	研壁 勝利	○
11	特定非営利活動法人飛騨高山わらべうたの会	理事長	岩塚 久案子	○
12	高山市連合長寿会	会長	中田 幸男	○
13	高山身体障害者福祉協会	理事	益田 美貴子	○
14	(一社)高山市医師会		加藤 早千代	欠席
15	高山市教育委員会	委員	桑谷 康弘	○
16	高山自動車短期大学	学長	坂井 歩	○
17	高山市社会教育委員会	委員	嶋田 喜美子	○
18	(一社)高山市文化協会	事務局長	関 善広	○
19	高山人権擁護委員協議会	委員	加藤 雅宏	○
20	高山市町内会連絡協議会	議長	中畑 稔	○
21	三枝の郷まちづくり協議会	会長	下山 哲正	○
22	一之宮町まちづくり協議会	副会長	水口 啓子	欠席
23	(公社)高山青年会議所	理事長	伊藤 惟	○
24	高山国道事務所	所長	竹島 大祐	欠席
25	高山市快適環境づくり市民会議推進委員会	委員	村上 千恵	○
26	たかやま林業・建設業協同組合	専務理事	長瀬 雅彦	○
27	高山市景観町並保存会連合会	会長	大野 二郎	○
28	(一社)岐阜県建築士事務所協会	飛騨支部長	仲 康信	○
29	高山市消防団	団長	西 明浩	○
30	岐阜新聞・岐阜放送ひだ高山総局	総局長	森嶋 哲也	欠席